



中小企業地域資源活用促進法にもとづくふるさと名物

岐阜県多治見市が応援するふるさと名物

地域色豊かな美濃焼の商品群

美濃焼生産地・産地卸の景観を活かした産業観光



「美濃焼」・・・地勢と歴史が織りなす多治見の地場産業

多治見市のプロフィール

多治見市は岐阜県東濃地域の玄関口にあり、地場産業である陶磁器のまちとして、交通の要衝として、名古屋市ベッドタウンとして発展をしてきました。濃尾平野に近接した谷地であることから夏季には非常に高温となり、平成19年8月には、当時の国内観測史上最高気温となる40.9度を記録しています。

多治見市の位置する岐阜県東濃西部地域は、陶磁器生産の原料となる窯業土石が豊富に産出したことから、古くから陶器の生産が盛んで、安土桃山時代の茶陶、江戸時代後期の磁器生産を経て、明治期には日本一の陶磁器産地へと成長し、現代は国内で圧倒的なシェアを占める一大産地となりました。

ライフスタイルの変化や安価な輸入品の影響等で、生産量や事業所数は減少基調とはいえ、窯業・土石製品製造業の企業数は市内企業の1割を超え、従事者数も4千人を超えるなど、依然市の中核産業として地域経済をけん引しています。

また、生産地、産地卸のまちがそれぞれ生み出した独自の景観は、観光資源としても着目され、近年は観光客も増加しています。



ふるさと名物の内容

1 主な地域資源

美濃焼 -生産地域毎に特徴のある陶磁器-

世界有数の陶磁器産業クラスターを形成する東濃西部地域では、分業化が進み、域内各地で生産する陶磁器に特色が生まれています。多治見市においても、市之倉地区では磁器を主体とするさかづきや茶器が、高田・小名田地区では地元陶土の特色を活かした大徳利や民芸調の陶磁器が、滝呂地区ではコーヒー碗皿等の洋食器が、笠原地区では日本一の生産量を誇るモザイクタイルの生産が、それぞれ盛んに行なわれています。

2 ふるさと名物

地域色豊かな美濃焼の商品群

各生産地で作られる商品はそれぞれの特色を反映し、生活雑器から高級茶器、工業製品まで多種多様な商品が市場に供給されています。

それぞれがこれまでの実績や経験を踏まえつつ、意匠性、機能性といった切り口で挑戦をしつづけており、新たな付加価値の創造に向け日々研鑽を積んでいます。



3 その他

美濃焼生産地・産地卸の景観を活かした産業観光

美濃焼を製造する岐阜県東濃西部地区は、日本の陶磁器生産販売を支える陶磁器産業最大の産地です。工芸や観光といった側面は勿論、市場に製品を供給する巨大産地としての顔が、各地域に独特の景観を形成してきました。当市では、こうした景観を活かした産業観光の推進を約20年続けており、成果が徐々に結実しつつあります。

陶磁器の産地卸のまちとして栄えた本町地区は、商家や蔵、料亭等が集積し、「本町オリベストリート」として多くの来訪者を迎えています。また、市之倉地区や高田・小名田地区では産地独特の景観や高名な陶芸作家のギャラリーが、多くの陶磁器ファンを呼び込んでいます。また、現代陶芸美術館を併設するメッセ施設「セラミックパークMINO」や、平成28年6月オープン予定で、笠原地区に建設中の「多治見モザイクタイルミュージアム」等、新たな観光スポットの整備も進められています。

さらに、春の陶器まつりや秋の茶碗まつりは、それぞれ春秋の名物イベントとして全国から来訪者を集めているほか、市之倉地区や高田・小名田地区でも産地まつりが開催され、地元と観光客の交流が行われています。



市の取組み

美濃焼の振興に向けた市独自の取組み

当市は、多治見市美濃焼振興協会や多治見市美濃焼タイル振興協議会といった官民一体となった陶磁器産業の振興組織に参画。首都圏での大型展示会への出展等で、業界と市場動向や課題を共有し、研鑽を深めています。

また、窯業原料の枯渇問題に対し広域による検討組織を設けたり、ブランド戦略で広域的に設立された美濃焼ブランディングプロジェクトに参画するなど、美濃焼をめぐる課題に対し積極的に関わり、官民一体となって問題解決に向け取り組んでいます。

【施設】

多治見市陶磁器意匠研究所

昭和34年に発足した、陶磁器に関するデザインや検査の受託業務、人材育成を行う研究所です。人材育成では、デザインコースと技術コース、そしてデザイン・技術コースの上位にあたるセラミックラボの3コースを用意。陶磁器産業に従事する人材の育成を行い、約7割の卒業生が美濃焼生産地に就職しています。

また、陶磁器の安全性検証のための金属溶出試験を毎年4～5千件実施するなど、様々な面で美濃焼振興を支援しています



市の取り組み

多治見市モザイクタイルミュージアム

多治見市笠原町に建設中のタイルをテーマにしたミュージアムです。懐かしい昭和の国産タイルのコレクションを活かした展示や、地元美濃焼タイル事業者のサンプル展示等、タイルを様々な視点から掘り下げ、来訪者にその魅力をアピールします。運営は地元タイル事業者により設立された(一財)たじみ・笠原タイル館が担うことが決定しています。



多治見市美濃焼ミュージアム

平成24年にリニューアルオープンした市営ミュージアムです。瀬戸黒や黄瀬戸、志野、織部といった桃山陶や、欧米で高く評価された幻の西浦焼など、約1,300年の歴史を持つ美濃焼の流れと、人間国宝をはじめ美濃の代表的な陶芸家の作品を展示。年4～5回の企画展を開催し、さまざまな角度から美濃焼を紹介しています。

また、当ミュージアムでは人間国宝など作家の茶碗で抹茶を楽しみながら鑑賞したり、桃山陶などの陶片を手にとって観察できるハンズオンにも力を入れています。

【条例】

美濃焼を使おう条例の制定

平成26年8月に制定された「多治見市美濃焼を使おう条例」は、市民や市内の事業者にと地場産業である美濃焼の普及や使用推進を促す内容となっており、官民をあげた美濃焼振興の機運醸成に貢献しています。